

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン 主体的に学び、これからの社会をたくましく生きる生徒の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析(○)及び改善策等(◇)	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標: 主体的な学びによる学力の向上 手段: 1 キャリア教育の視点を意識し夢や目標をもたせる。 2 小中一貫性のある学習指導をすすめ、授業改善を推進する 3 個に応じた指導を充実させ、「分かる」実感をもたせる。 4 英検・漢検へのチャレンジを進める	1について ○ 各学年において、1年生では農業食育体験、2年生では職場体験、3年生では高校説明会や福祉体験を実施したほか、全校としても地域の協力を得ながら多様な体験活動を行うことができた。これらの体験活動を通して、生徒が自ら考え、主体的に行動しようとする態度が徐々に育まれてきている。また、外部人材を活用した取組を延べ35回以上実施できたことは、学びを学校内にとどめず、社会と結び付ける有効な機会となったといえる。 ◇ 体験を通じた学びの系統性や継続性の確保が今後の課題である。	4	4	○ 中学生になると将来を見据えたビジョン、職業や目標を見つけ、それに向けた取組が必要になります。夢に向けた職業を体験し、理想と現実の違いを見るのは難しいと思います。人の体験談を聞いたり、仕事は甘いものではないことを体験できるのは素晴らしいことだと思います。 ○ 将来の夢や目標をもち、実現に向けて各子供に対して自己実現に対して多様な活動(農業食育体験、職業体験活動)を行い、将来に対してどのようなビジョンを持ったら良いか考える力を養わせる事ができている。 ○ 研究公開では、素晴らしい成果を上げられました。他校からも来られた方々から称賛の声を聞きました。 ○ 研究公開の取組、大変だったと思います。小中連携のとりやすい永久津の良さをだしていただいて良かったと思います。 ○ タブレット端末を使用して、生徒は自由自在に学んでいますが、全国的には、電子黒板を使われ、グーグルの機能を使って学んでいる所も有ります。ICT支援員はどの増員要望、電子黒板、グーグルの専門員派遣など、教育委員会へ要望して下さい。 ○ 校内外のテスト結果が良好だということは、個別指導が良い結果につながっていると考えられて良いと思います。
	2について ○ 市指定の研究公開に向けて、研究授業を行い、小林市教育委員会や南部教育事務所からのアドバイスをもとに授業改善に努めた。また、小学校と合同研究推進委員会と授業研究会を行った。研究公開では、参加した方々から高い評価をいただいた。 ◇ 学習内容や指導方法の系統的な共有に課題が残った。今後は、課題を踏まえ、小中連携をさらに深め、授業改善につなげていく。				
	3について ○ 校内外のテスト結果を教科ごとに分析し、その結果を踏まえた個別指導の充実を図った。校外テストにおいては、一定の学習成果が確認できた。 ◇ 学習内容の理解度には生徒間で差が見られることから、今後は学習状況の把握をより一層丁寧に行い、一人ひとりに応じた個別最適な学びのさらなる充実が課題である。				
	4について ○ 本年度の英語検定受検者数は、17名(延べ人数)で、3級以上取得者は3名であった。 ○ 漢字検定受検者は、35名(延べ人数)で、3級以上の取得者は9名であった。今後も検定受検を推進していく。				

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析(○)及び改善策等(◇)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
徳育	<p>重点目標： 豊かな人間性・主体的に生きる力の育成</p> <p>手段： 1 道徳や人権教育の充実に努め、いじめ・不登校ゼロを目指す</p> <p>2 一人一人に寄り添う支援や教育相談の充実に努める。</p> <p>3 生徒の長所を伸ばし、困難を乗り越えようとする態度を育てる</p> <p>4 スクールワイドPBSに基づき、自己指導能力を身につけさせる</p>	<p>1、2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月「学校生活に関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努めた。人間関係のトラブルは、学級担任を中心に、全職員で対応にあたった。今後も継続していく。 ○ 不登校生徒については、ケース会議等を行い、個に応じた対応を行った。改善の兆しも見られる生徒もいる。 ○ 全職員で道徳の授業に取り組んだ。 ○ 生徒と保護者のアンケートによると、他人との関わり方が良好という結果であったので、学級や全校での様々な取組の成果であると考える。 <p>3、4について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実行委員会等への指導・支援を通して、学校行事やボランティア活動に主体的に取り組む生徒が増え、自分の役割を意識して行動する姿が見られるようになった。 ◇ 今後は消極的な生徒も主体的に関われるよう、役割設定や支援の工夫が必要である。 ○ 生徒一人一人に丁寧にに関わり、自己決定の機会を設けることで、自分で考え行動しようとする姿勢が育ってきた。 ◇ 時間的制約から十分な対応が難しい場面もあり、自己決定を促す指導について教員間での共通理解を深める必要がある。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめは大人の目に留まらないものです。1人1人に目を配るのは大変だと思いますが、これからも防止策を宜しく願い致します。 ○ 不登校生徒にも先生方がしっかり寄り添って頂いて感謝しています。 ○ 豊かな人間性を養う為の取組等、個人との関わり方が良好という結果が出ている点、また、不登校生徒に対しても個々に応じた対応をしていただき改善の方向へ行っているの、今後もつづけてほしいと考えます。 ○ 3、4に関して、実行委員会、生徒会での活動も素晴らしいと思います。他の学校の例では、地域で困っている事などへのボランティアもされているようです。
体育	<p>重点目標： 健康・安全教育、体力の向上</p> <p>手段： 1 睡眠の大切さを理解させ7時間以上の睡眠時間の確保を図る。</p> <p>2 体力向上プランを基に体力向上、競技力の向上を目指す</p> <p>3 授業開始・終了時の立腰指導を行い正しい姿勢の意識化を図る。</p>	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康観察で毎日の睡眠時間の把握に努めた。その結果、睡眠時間の不足や生活リズムの課題が明らかとなり、指導改善に生かすことができた。 ◇ 調査結果を継続的な指導や個別支援につなげる点に課題が残った。 ○ 保健だよりを配付し、家庭に対して睡眠の重要性や7時間以上の睡眠確保、家庭でのルール作りについて呼びかけた。 ◇ 啓発の機会とはなったが、家庭によって取組状況に差が見られる。 <p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Tスコア48項目中40項目で平均を上回った。昨年度より大幅にアップした。昨年度の反省を踏まえて、体育の授業や部活動等で体力向上に取り組んできた成果であると考えられる。 ○ 男子バレーボール部が県大会に出場した。 <p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 概ね立腰はできているものの、生徒・保護者とも平均値が2.8にとどまっていることから、姿勢を正す意義が十分に理解されておらず、指導が形式的になりやすいという課題がある。 ◇ 立腰の目的や効果を具体的に伝えるとともに、児童生徒一人一人の実態に応じた指導を行っていく必要がある。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の睡眠時間の不足が生活のリズムにつながり流行にもいきようが出るので今後も啓発活動を行なってほしいと思います。 ○ 睡眠時間の大切さを大人になると非常に感じます。時間の使い方に工夫が出来ることと学力共に向上すること、体験できると良いですね。 ○ 運動神経の良い子供達が多いので、納得できます。ずっと継続して欲しいものですね。 ○ 姿勢が体を作ると言っても過言ではないと思います。目(視力)肩こり、身長などを左右することを自覚できると良いですね。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析(○)及び改善策等(◇)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
食育	重点目標： 健康な身体づくりのための「食」に対する意識の向上 手段： 1 残食0を基本とした給食指導の充実 2 朝食抜きの生徒0を目指し、職についての意識を高める。 3 弁当作りを行わせ、食についての関心をもたせる。	1について ○ 残菜ゼロは、ほぼ達成できた。 2について ◇ 朝食について、毎日健康観察で確認を行っているが、時々食べていない生徒が見られる。栄養教諭の講話等も行い、啓発に努めている。今後も本人・保護者に啓発活動を行っていく。 3について ○ 昨年度の5回から3回に実施回数を減らしたことにより、充実して取り組むことができた。	4	4	○ 残食0(ゼロ)は、どの学校でも達成できるものではないので素晴らしいです。朝食と睡眠のつながりを意識すると良いですね。 ○ 朝食については、各家庭の問題があり、本人や保護者への啓発をお願いします。 ○ 弁当作りについても、回数を減らし、充実した取り組みとなったことが評価できる。
その他	重点目標： 保護者や永久津小学校、地域との連携の推進 手段： 1 学校だよりや学級通信の発行により保護者との連絡を密にする 2 学校ホームページの更新により学校の取組をお知らせする 3 小中合同での会議や研修の充実を図る。 4 生徒の主体性や郷土愛を育むため地域の行事への参加を進める。 5 メディアコントロールができる生徒の育成を図る。	1、2について ○ 学校だよりや学級通信等の定期的な発行を通して、保護者・地域の理解を深めることができた。教育活動のねらいや成果が伝わる内容を意識するとともに、計画的な発行を行う。 ○ ホームページの更新は、70回以上行い、学校の様子や連絡事項を発信し、保護者・地域への情報提供を行うことができた。 3、4について ○ 小中合同の職員会や研修会を定期的に行うことで、円滑に合同行事を実施することができた。生徒アンケート平均3.5、保護者アンケート平均3.8となっており、高い評価である。 ○ 球技大会、永久津どんと祭り等に積極的に参加できており、地域での役割を果たそうとする意識は芽生えてきている。 5について ○ 保健だよりの記事掲載や、情報モラル教室も2回実施することで啓発を推進した。生徒の意識は高まった。 ◇ 保護者のアンケート結果は、平均値が2.7となっており、家庭でのスマホ等の扱いに苦慮していると思われる。	3	4	○ スマホの扱いは、うちは○○して決めて、実行したら、○○となりました。「などの実体験を話す場を子供達で話せると少し変わってくるのではないかと思います。 ○ 地域との連携について球技大会、どんと祭りの準備から終わったあとの片づけまで行っている事で地域との交流につながっていると考えられる。 ○ 家庭でのメディアコントロールについて、今後も継続した啓発が必要と思われる。
次年度の方向性についての校長所見	本年度は小林市指定の研究公開を実施した。公開に向けて、昨年度から授業力向上の取組を全職員で行ってきた。数学と英語の研究授業を実施し、参観した市内の先生方から授業内容と生徒たちの学ぶ姿が素晴らしいとうれしいことばをいただいた。また、生徒の学力高く、学力向上という点では成果を上げることができた。本校の特徴の一つとして、地域と連携した豊富な体験活動が挙げられる。学校だけでできることには限りがあるが、保護者や地域の力を借りて、様々な体験活動を実施することができている。SNSの普及とともに、他者に対する心無い行動が社会問題化している中、他者と協働することや他者を思いやることを体験活動を通して学んでほしい。次年度も学校と地域、保護者で協働し、永久津地区の子どもたちが豊かな人生を送れるように教育活動を進めていきたい。				